

# 名古屋ゴルフ倶楽部和合コース 開場当時のクラブハウス

「いこまい館」の駐車場のすぐ傍らにアーチ型の窓の「スペイン風建物」が建っています。

元は、“名古屋ゴルフ倶楽部和合コース”の「クラブハウス」でしたが、昭和34年の建て替えに伴い、クラブハウスの一部が東郷村に寄附されたものです。

建物は、同コースの開場にあわせて、昭和4年に建てられたものであることから日本のゴルフ史上では、80年以上も前に立てられた現存最古のクラブハウスといえます。

この建物は、村役場庁舎の一部（事務室及び村長応接室）として使用されていましたが、昭和45年の町制施行とともに庁舎が現在地（春木字羽根穴）に移った後、活用されていませんでした。

町では、人口急増の波への対応として、昭和40年代後半から新旧住民の融和を提唱した『ふるさと とうごう運動』が展開されました。

その運動の一環として、開発の波とともに失われつつある郷土の歴史資料を保存・展示する施設の設置が検討され、「東郷町郷土資料館（旧事務室）」及び「同資料館の倉庫（旧貴賓室）」として活用されることとなり、昭和52年から平成15年まで使用されてきました。

◆郷土資料館では、開発や住居の建て替え等に

より失われつつあった郷土資料の収集保存活動を昭和52年の開館当初から開始し、考古資料（愛知池を中心地域とする猿投山西南麓古窯跡群からの出土品等）を始め、町民から寄附された民具や農具、文書などの歴史資料等を多数収蔵しています。



「旧郷土資料館」



「旧貴賓室」

郷土資料館の収蔵品 登録数（R5年度末）	
古文書	311件
古写真	186件
書籍	265件
考古出土品	182点
民具・農具	未登録 410箱（コンテナケース） 1,581件

◆平成16年、「いこまい館」のオープンにあわせ、郷土資料館の機能をいこまい館に移すとともに“名古屋ゴルフ倶楽部和合コースの”クラブハウスだったという歴史を広く紹介するため、建物がいこまい館敷地内に移築されました。

移築当初は、「自然体験館」という名称で利用者の休憩施設として活用されていましたが、以後「わくわくらんど」という福祉施設となり、現在はイベント時の資材準備室となっています。

◆倉庫となっていた「旧貴賓室」は、寄附移築から50年を経過し、老朽化による倒壊が危惧されることから、平成19年度に耐震改修工事が行われました。

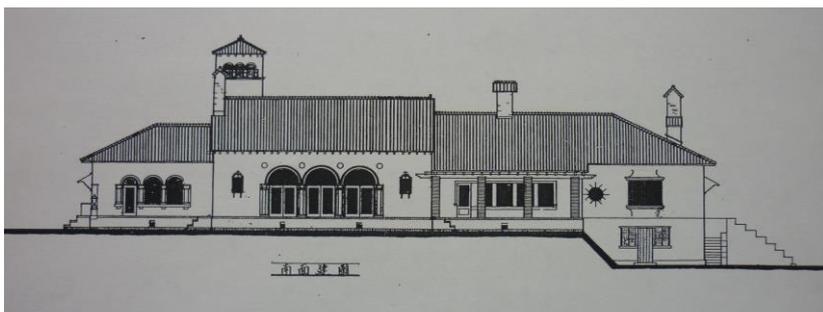
◆郷土資料館と旧貴賓室は、ともにクラブハウス建物の一部でしたので、往時の様子をより具体的に再現するためにも一箇所に置いて一体的に活用されることが望まれます。



プレー風景(後方が、アーチ型窓のクラブハウス)

#### < 建物活用の歴史 >

昭和 4(1929)年 名古屋ゴルフ倶楽部和合コースのクラブハウス新築  
 昭和 34(1959)年 クラブハウスの建て替えに伴い建物の一部が東郷村に寄附され、春木字申下(サルシタ)にあった村役場の「事務室」および「貴賓室」(村長応接室)として使用。  
 昭和 52(1977)年 「事務室」を敷地内の西端に移動したうえで「東郷町郷土資料館」として、また「貴賓室」を同資料館の倉庫として活用。  
 平成 16(2004)年 「東郷町郷土資料館」を「いこまい館」敷地内に移築。名称を「自然体験館」と変更し、主に施設利用者の休憩のための施設として活用。「貴賓室」は、そのまま春木字申下の地に現状保存。  
 平成 20(2008)年 「貴賓室」の耐震補強工事。  
 平成 23(2011)年～令和 4(2020)年 「自然体験館」を福祉施設として利用。(令和4年まで)  
 令和 6(2024)現在は、町のイベント時の資材準備室等に利用している。



クラブハウス南面建図 (設計:清水組)

「東郷町郷土資料館」や「名古屋ゴルフ倶楽部和合コース」に関する文献や資料等は町の図書館(町民会館 3階)で所蔵していますので、一度ご覧ください。

「東郷町郷土資料館・年報」、「和合の五十年(名古屋ゴルフ倶楽部)」など